

# 5G利活用型社会デザイン推進コンソーシアム

## 概 要

2020年 9月

一般社団法人 電子情報技術産業協会（JEITA）  
事業推進戦略本部 IoT事業推進部

# 電子情報技術産業協会（JEITA） 概要

## 事業内容

電子情報技術産業（電子部品・半導体・電子機器等の製造、ITソリューションサービスの構築・運用及びそれらを活用する産業）の事業伸長を目指すとともに、**Society 5.0の実現を支える業界団体**として、社会課題の解決や企業価値の向上、共創による新市場の創出等に資する取り組みを推進。

## 会員数

386社/団体（2020年7月28日現在）

## 理事会社・ 正副会長会社

|           |            |          |          |
|-----------|------------|----------|----------|
| ソニー株式会社   | 株式会社東芝     | 富士通株式会社  | シャープ株式会社 |
| 株式会社日立製作所 | パナソニック株式会社 | 三菱電機株式会社 | 日本電気株式会社 |
| 横河電機株式会社  | TDK株式会社    | 株式会社JTB  | セコム株式会社  |

## 政策幹事会社

|               |              |                   |
|---------------|--------------|-------------------|
| アルプスアルパイン株式会社 | 沖電気工業株式会社    | キヤノン株式会社          |
| 株式会社JVCケンウッド  | セイコーエプソン株式会社 | 日本光電工業株式会社        |
| パイオニア株式会社     | 株式会社村田製作所    | ルネサス エレクトロニクス株式会社 |

## 監事

|                       |          |
|-----------------------|----------|
| 一般財団法人NHKエンジニアリングシステム | 株式会社フジクラ |
|-----------------------|----------|

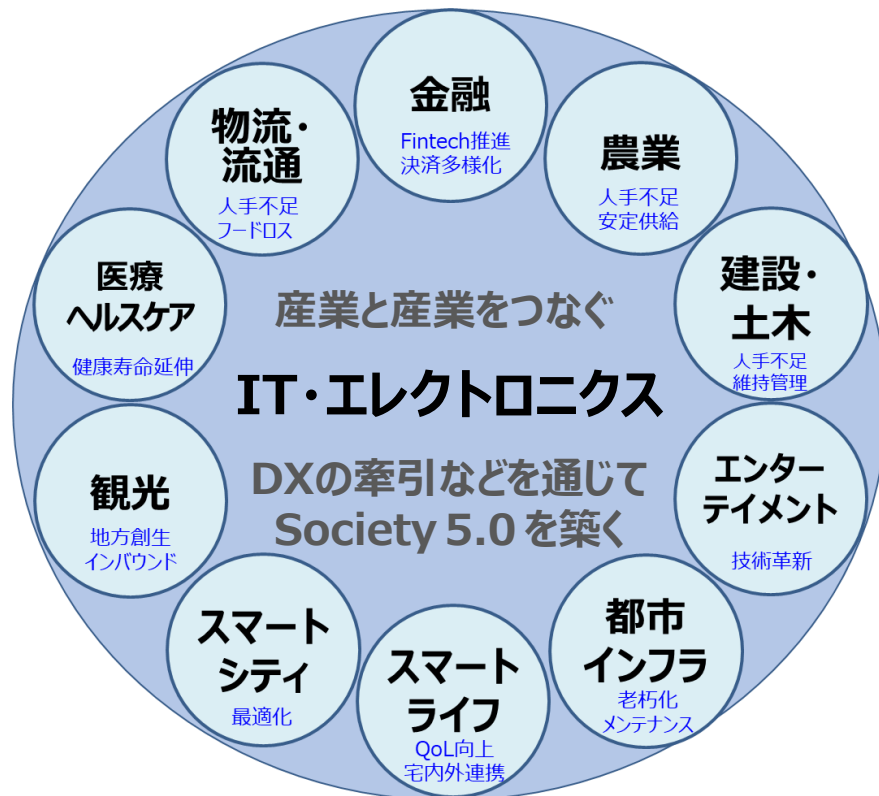
# Society 5.0の実現に向けて

## JEITAの 使命・役割

IT・エレクトロニクス産業を中核に、業種・業界の枠を超えた横断的な社会課題やテーマを取り扱う場＝プラットフォームを構築し、社会・産業・企業のデジタルトランスフォーメーション（DX）を促す等の活動を推進することで、Society 5.0の早期実現を図る。

## 共創の 枠組み作り

多種多様なステークホルダー（非会員を含む企業、自治体等）との「共創」を支援する枠組みとして、「JEITA共創プログラム」を創設。政府をはじめ関係機関とも密に連携し、社会へのテクノロジーの浸透（DXの領域拡大等）を図ることで、新市場の創出と社会課題の解決を目指す。



## JEITA共創プログラム

### オープンな検討体制の構築

＜事務局：IoT事業推進部＞

ビジネスマッチング、共同実証、普及啓発 等々  
Society 5.0実現に向けたPJの実行

DXの加速

サービス開発

標準化

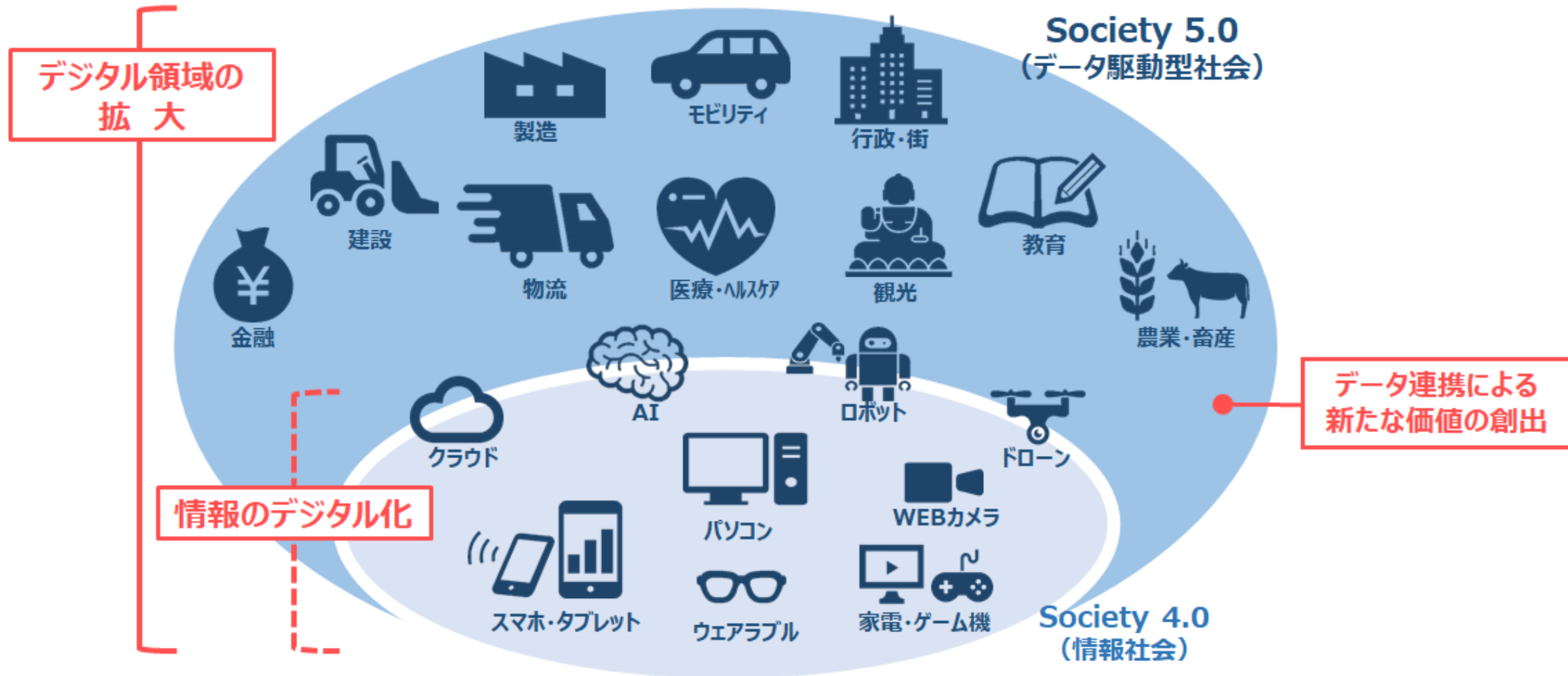
...

市場創出

社会課題解決

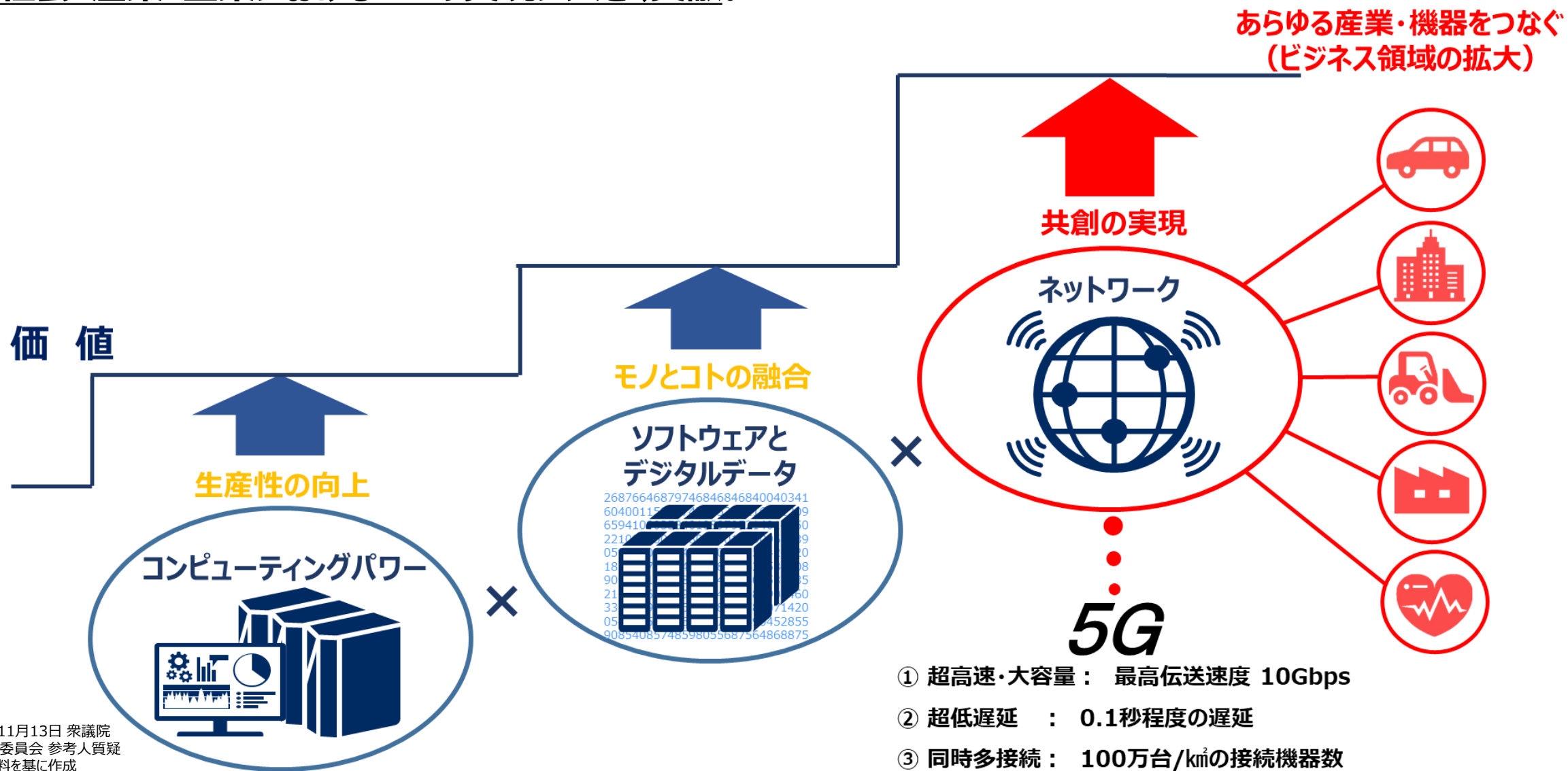
# デジタル領域の拡大による新たなビジネスチャンスと情報インフラの重要性

- 社会・産業・企業のDXには、データを媒介として様々な産業分野が繋がる必要がある。
- 社会全体のデジタル化に伴い、情報量が飛躍的に増加するため、5Gのような高度情報通信インフラの重要性が高まる。



# デジタルトランスフォーメーション（DX）を支える5G

- 5Gは、ICTの機能（リアルタイム性、ダイナミック性、リモート性）を最大限に引き出すことができ、**社会・産業・企業におけるDXの実現に大きく貢献。**



# 5G利活用型社会デザイン推進コンソーシアムの設立と活動の展望

- 5Gをはじめとする高度情報通信インフラは、それらをDXのツールとして利活用する側 **(ユーザー) が自ら目的に合わせて主体的に考え、生産性向上やサービス等の高付加価値化を図ることが重要**である。また、他の事業者との共創によって、サービス等の価値はさらに高まり、やがては新たな社会システムをデザインしていくことが可能となる。
- **ユーザーを含め、あらゆる業界・業種のプレイヤーが集う「5G利活用型社会デザイン推進コンソーシアム」**を設立し、フェーズに応じた活動を展開する。

- ✓ ユースケースの多角的視点による考察
- ✓ ユーザー向け解説コンテンツ
- ✓ 市場の見通し

初 期

- ✓ 分野別ユースケースの集約
- ✓ 社会浸透に向けた普及啓発
- ✓ 海外動向の把握

導入期

- ✓ サービスモデルの提言
- ✓ 分野別の課題等に合わせた活動
- ✓ 市場形成を後押しする制度要望

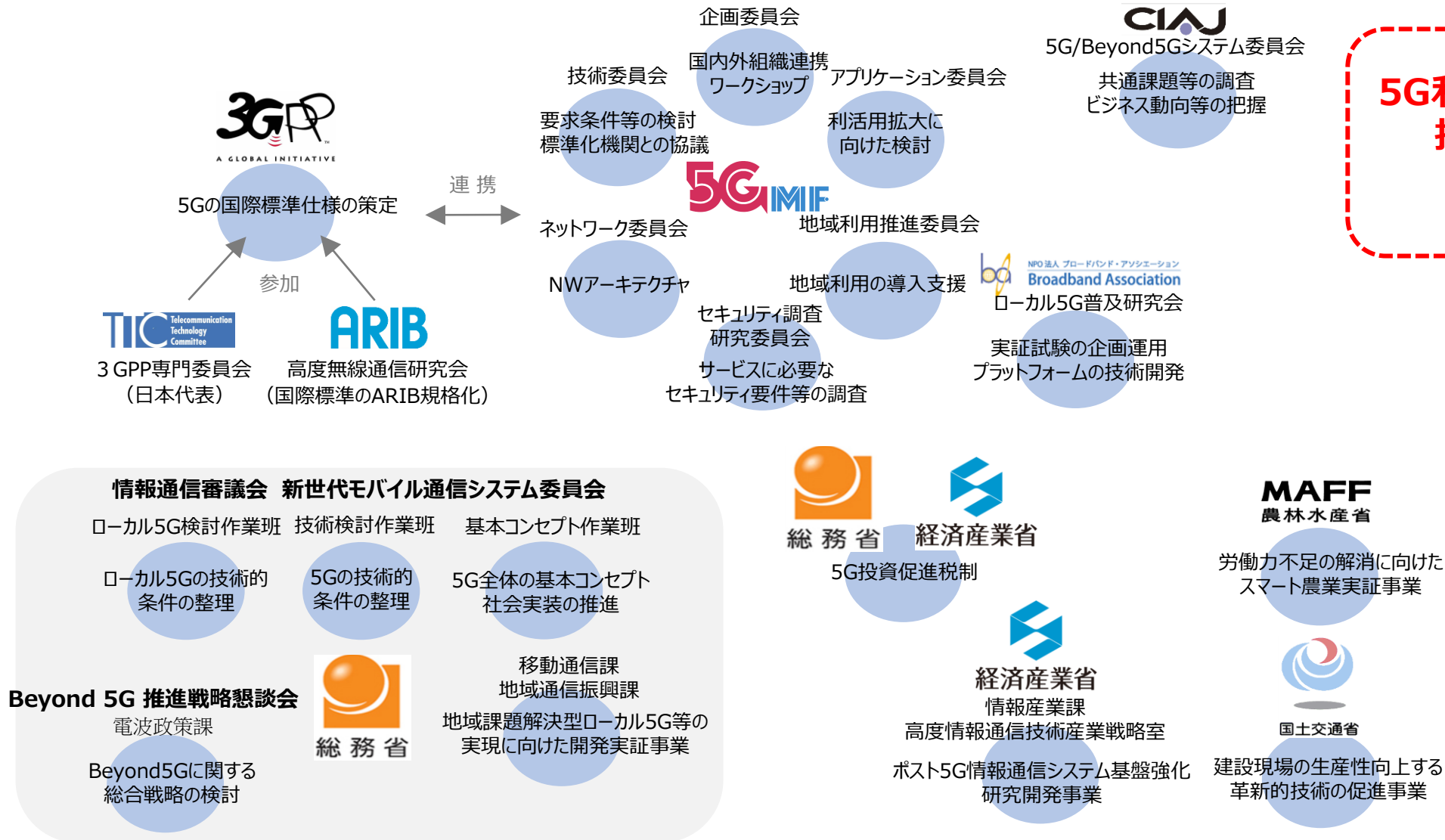
成長期

**社会環境に合わせて、必要とされる取組みを柔軟に考え、各事業者にとって価値のある活動を持続**

# 5G関連の団体・行政の活動

事業基盤整備

産業競争力強化



**5G利活用型社会デザイン  
推進コンソーシアム**  
**JEITA** (事務局)

本コンソーシアムは 関連省庁・団体等と連携して活動を推進



# 本コンソーシアムにおける活動のスコープ

- 本コンソーシアムでは、ビジネスやユーザーの視点を重視した活動を推進。
- 先ずはローカル5Gに着目した活動を行い、各ステークホルダーの共創による新たなビジネスの勃興を目指す。

## ①DXを具体化するユーザー

サービス事業者 地方公共団体  
フィールド保有者 等

## ②アプリケーション提供事業者

IT・OT NW構築 クラウド提供 等

## ③ハードウェアメーカー

通信機器 ロボット 電子部品 半導体等



行政・街



教育



製造



建設



医療・ヘルスケア



農業・畜産



観光



モビリティ

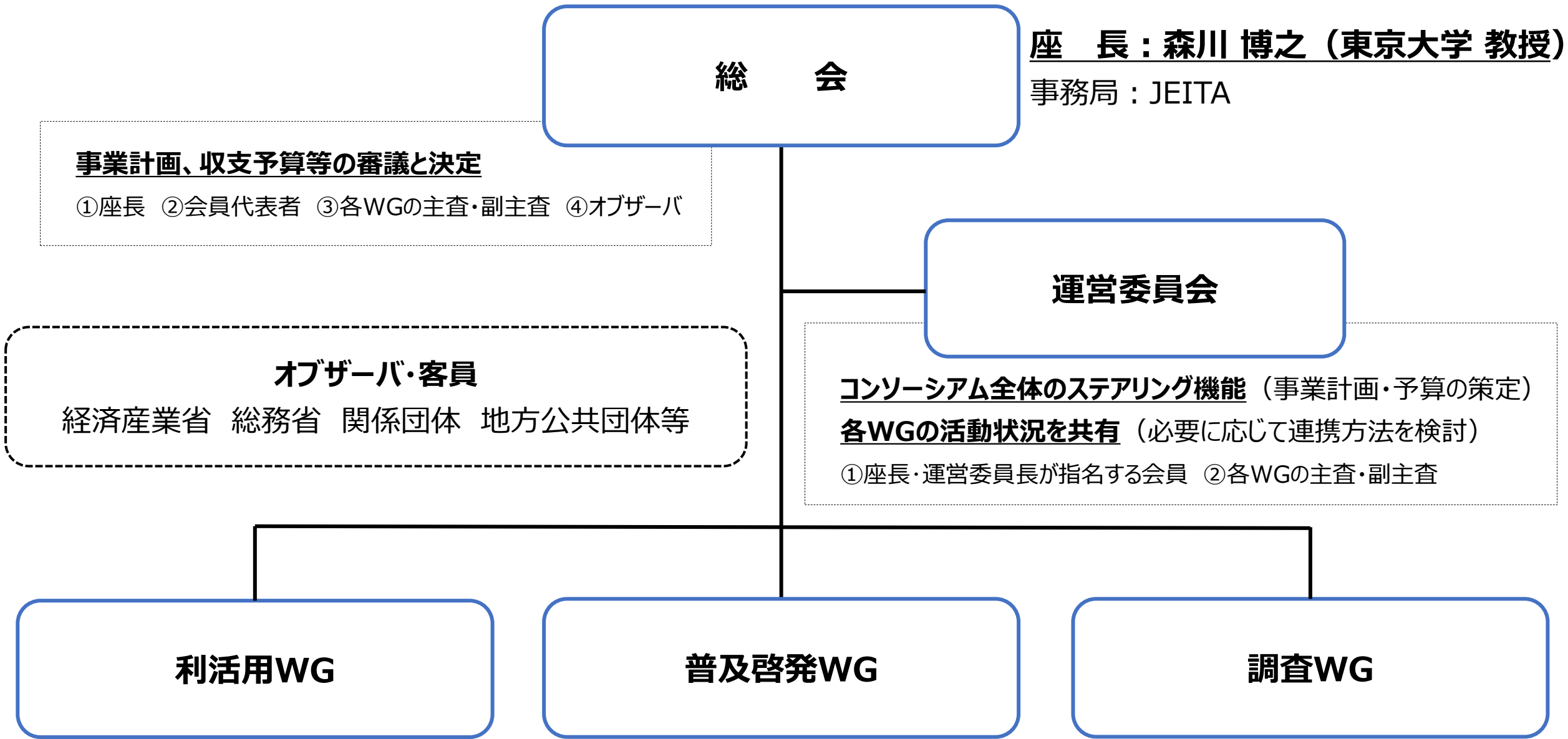
ローカル5G利活用の可能性がある分野の一例

多角的な視点から考察

- ① 課題抽出・解決のための検討を通じてユースケースの社会浸透を推進。（DXのマインド醸成）
- ② アプリケーションレイヤーを中心にビジネス領域の拡大を後押し。（新規市場の開拓）
- ③ 海外展開やBeyond5Gも見据えた製品の研究開発を促進。（競争力の維持）



# 5G利活用型社会デザイン推進コンソーシアムの組織体制



# 活動内容に関する検討（利活用WG）

## 活動内容に関するニーズと検討事項

- 各プレイヤーが注目する分野は、**立場や観点により様々**である。
- **WGで優先的に検討する分野**については、コンソーシアム設立後、参加メンバーによる議論を通じて特定したい。

## ■活動の狙い（短期目標：2020年度）

- ✓ 総務省や他団体で先行して纏められている概念や検討結果をリファレンスとして、**既存のユースケースを多角的な視点から考察**する活動から着手。
- ✓ **参加メンバーの知見やユースケース当事者へのヒアリング**を通じて対象分野を広げ、次年度以降の活動に繋げる。

サービス提供・運用する上での課題やニーズ

必要とされるキーデバイスの要求特性

### ①DXを具体化するユーザー

サービス事業者、地方公共団体、  
フィールド保有者 等

相互理解の促進

### ②アプリケーション提供事業者

IT・OT、NW構築、クラウド提供等

相互理解の促進

### ③ハードウェアメーカー

通信機器、ロボット、  
電子部品、半導体 等

導入検討に向けたサポートやユースケース

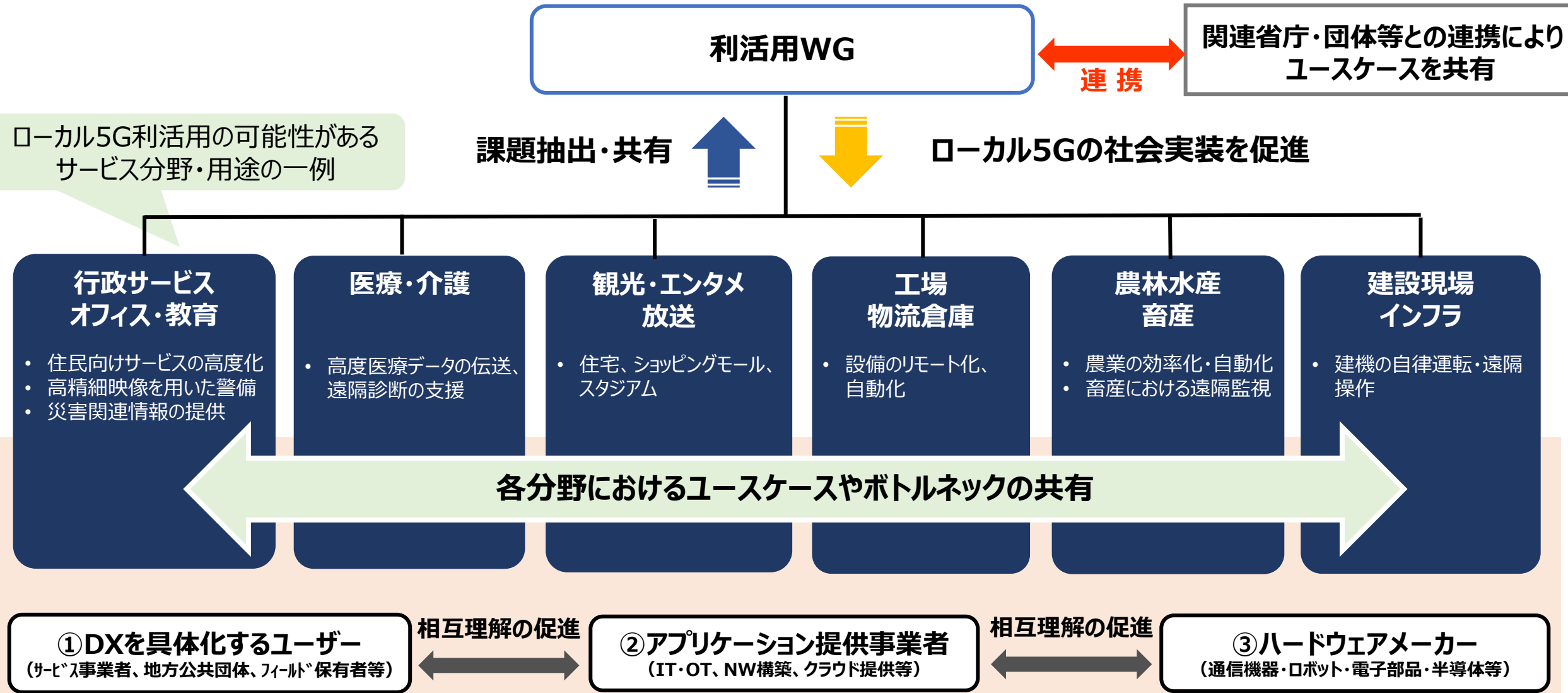
製品開発、安定供給する上でのボトルネック

## ■活動の狙い（中長期目標：2021～2022年度）

- ✓ 今後の電波の利用拡大を受けてユースケースは多様化が進む。**各分野における課題や共通項を見出していくことが重要。（仮説の設定）**
- ✓ **ユーザー企業や自治体との連携を加速**させ、フィールドやリソース提供の提案があればテストベッドとしての利用を検討する。（有効性の検証）

活動のアウトプット ①サービスモデルの提言 ②市場形成を後押しするための制度要望

# (参考) 利活用WGの目指す体制イメージ



事業領域や取扱い製品に囚われず 多様なプレイヤーが一堂に会し検討できる組織を構築

# 活動内容に関する検討（普及啓発WG）

## 活動内容に関するニーズと検討事項

- ローカル5Gの仕組みや特性、メリット、事例等について、**ユーザー層の理解を得る**ことが必要。
- 参入障壁の一つとして**導入・維持コスト**が挙げられ、市場形成には**国の支援策による後押し**が有効。
- 普及啓発の観点で、まずは**潜在的なユーザー等に向けて発信すべき情報**は何か整理することが重要ではないか。

## ■活動の狙い（2020年度～2022年度）

✓ ローカル5G関連の**サービス実施にあたって必要とされる情報を整理・発信**することが、**ユーザーの理解促進や市場拡大**に繋がる。

### ユーザー向けローカル5G解説書

- ・ローカル5Gの仕組みや特徴
- ・ベーシックな構成例とメリット（他の通信手段との比較など）

### 5G導入促進税制活用ガイド

- ・税制の概要    ・申請スキーム
- ・活用のメリット／注意点（費用計算例示含む）
- ＊8月：経産省において税制の広報活動開始予定

### 関係省庁との政策連携

- ・活動内容を踏まえた関係省庁（経産省・総務省等）との意見交換など

### サービスや導入事例の紹介（メディア等の活用）

- ・サービスラインナップの紹介  
（分野、用途、システム構成例、導入効果、製品一覧）
- ・実績のある企業や自治体へのインタビュー記事掲載

＊利活用WGの活動と協調

活動のアウトプット ①**ユーザーの理解促進** ②**ユーザー・アプリケーション提供事業者のビジネス後押し**

# 活動内容に関する検討（調査WG）

## 活動内容に関するニーズと検討事項

- 国内・海外の市場動向や事例に関する調査のニーズが共通項。技術動向やサプライチェーンの把握といった声も有り。
- 利用目的を明確にした上で、調査の設計を行うことが望ましい。

## ■活動の狙い（2020年度～2022年度）

✓ 多角的な視点から調査を実施して、事業計画や経営判断を支援する。

### 5G/ローカル5Gに関する グローバル市場動向

- ・調達 ・生産計画（設備投資）
- ・税制等の制度要望への利用

### 海外ユースケース

- ・先進事例の研究
- ・主要プレイヤーの取組みやビジョン研究

### 技術動向や要求特性

- ・研究開発の支援
- ・ユーザーから求められる仕様の把握

活動のアウトプット ①市場・トレンドに関する動向の把握 ②技術動向や要求特性の把握

# 入会メリット

本コンソーシアムでは、各会員の強みを繋ぎ合わせ、新たな事業活動の具体化をサポートします。

## ● 共創サービスの具体化に向けたビジネス支援

### 企業間連携

プロジェクトをベースとした  
事業者連携機会の提供

### 官公庁との政策連携

国・地方公共団体等との  
政策連携機会の提供

### 新たな人脈の形成

業界の垣根を超えたビジネス  
パートナー発掘機会の提供

## ● 事業発展に役立つ知の獲得

### ユースケース

国内外のユースケースや  
市場動向等の収集・考察

### ボトルネック 解決方策

具体化しない案件の  
課題解決方法

### ニーズ・シーズ 顕在化

導入側のニーズ、提供側  
のシーズ等の情報交換

- **入会資格**    本コンソーシアムの目的・事業に賛同する事業者及び地方公共団体等。
- **入会・委員登録手続き**    「入会申込書 兼 委員登録票」を事務局宛てにお送りください。  
\* 記入フォームは当協会のウェブサイトに掲載しております。
- **申込期限**    2020年 9月 14日（月）
- **年会費**    2020年度は、年会費の徴収を行う予定はありません。  
\* 2021年度以降につきましては、活動内容や組織体制、運営方法に鑑みて決定します。
- **本件に関するお問い合わせ先**  
  
5G利活用型社会デザイン推進コンソーシアム 事務局（JEITA 事業推進戦略本部 IoT事業推進部 内）  
西島、藤原、飯沼 E-mail 5g-consortium@jeita.or.jp  
  
\* 当協会ではCOVID-19対策の一環として在宅勤務を実施しております。  
恐れ入りますが、ご連絡はE-mailにてお願い致します。



## ■ 目 的

我が国における幅広い産業、事業者のデジタルトランスフォーメーションの実現を目指し、第5世代移動通信システムをはじめとする高度情報通信技術（以下、「5G」）及びデジタル技術等を活用したサービス市場の創出促進や関連産業の競争力強化を目的とする。

## ■ 事 業 上記目的を達成するために以下の事業を行う。

- （１） 5G及びデジタル技術等に関するユースケース、課題、ニーズ等の調査検討や政策提言
- （２） 5G及びデジタル技術等に関するサービスの普及啓発にあたり、必要な情報の整理、発信
- （３） 5G及びデジタル技術等に関する市場及び技術動向等の調査研究
- （４） このほか、本コンソーシアムの目的を達成するために必要な事業

# 5G利活用型社会デザイン推進コンソーシアム 設立総会

■開催日時 9月24日（木）16：00－17：00 予定

＊Zoom によるオンライン開催を予定。

詳細は入会・登録責任者および総会 登録委員へ別途ご案内。

- 予定議題
- 1．関係省庁より挨拶
  - 2．発起人 挨拶
  - 3．座長就任の決議、運営会則、組織体制・事業計画の承認
  - 4．運営委員長・各WG主査 任命、挨拶
  - 5．座長による基調講演
  - 6．今後の活動スケジュール